
殺し屋

タケノコ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

殺し屋

【Nコード】

N2357I

【作者名】

タケノコ

【あらすじ】

電話による殺人依頼。請け負ったのは殺し屋。ターゲットとなった人物の運命やいかに！

(前書き)

SFものショートショートです。空いた時間でまじひな。

ここは、あるビルの一室。月が天高く昇る時、備え付けてある電話のベルが鳴った。

「もしもし、合言葉は？」

見るからに凶悪そうな男は電話を取って、そう尋ねた。

『……蝶のように舞い、蜂のように刺す……』

電話の相手は低い声で答える。

「正解だ。依頼内容を聞こう」

恐持ての男は、メモ用紙を出した。

「……依頼内容は、わかった。殺人の場合は前金で一千万円。それをさっき言った口座に振り込め。確認次第行動に移す」

『……すぐにでも振り込む……以上だ』

夜の8時。ターゲットの屋敷に侵入した殺し屋は目的の男と対峙していた。

「悪いが、依頼なんでね。死んでもらう！」

殺し屋は自身が得意とするナイフで必殺の一撃をターゲットに仕掛けた。

「……！」
屋敷の廊下に金属が重なり合う音が響く。

「……お前は、いったい……」

動揺する殺し屋。それもそのはず。ターゲットの手にはナイフがあり、そのナイフには血が付いているではないか。

「クッ…」

膝をつく殺し屋。彼の下腹部からは、大量の血液が流れ出ていた。

「…惜しかったな。君は強かったのに」

ターゲットであった男は殺し屋を見下ろす。

「！！！！。その声…は！………」

何かに気付くも。生き絶える殺し屋。

ターゲットはその死体に近づきナイフで小指の先を切り取った。

「…君で十三人目だ。…私を越える殺し屋はこの先、現れるだろうか」

生き残った男は、ポケットから出した小箱に、戦利品を静かにしまい込んだ。

「おしまい」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2357i/>

殺し屋

2010年10月12日10時59分発行